

平成 25 年度第 8 回（通算第 61 回）

山口国際文化化学研究会へのおさそい

「現代の鏡としての歴史」

教員世話人 安溪遊地 井竿富雄 進藤優子

院生世話人 呉暁良 中村彩佳 岡村理恵 張超超

日時 平成 26 年 1 月 22 日（水曜日）16 時 10 分より
場所 国際文化学部棟 C-12 教室
主催 大学院国際文化化学研究科
発表者 伊藤幸司 国際文化化学研究科 准教授

タイトル 「現代の鏡としての歴史」

要旨

「歴史」とは、現在を生きる我々にとっては「過去」のものでしかないと一般的に思われている。これは一面では当たっている。しかし、一方で「歴史は繰り返される」とも言われ、現在の状況を読み解く重要な鍵となる場合も少なからずある。

今回の報告では、「現代の鏡としての歴史」という視角から、いくつかの歴史的事象（例えば、10 世紀の日本社会と仏教、日本人の朝鮮観など）をとりあげて解説したい。そして、こうした「歴史」を知ることが、現在を生きる我々に何を問いかけているのか、ということについて考えをめぐらして欲しいと思う。

参考文献

村井章介『アジアのなかの中世日本』校倉書房、1988 年
平雅行『日本中世の社会と仏教』塙書房、1992 年
ロナルド・トビ『「鎖国」という外交』小学館、2008 年

※終了後 18 時から Yucca で、第二部として自由なトークを展開できる場（山口国際文化化学 SALON）を準備しております（有料）。こちらも皆様の積極的なご参加をお願いいたします。